三鷹市立高山小学校　令和5年度【　社　会　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	○見学や講話などで児童が実際に見聞きする場を設定したり、動画を作成したりして、実感の伴った学習ができた。 ◎予想、分かったこと、まとめなどを自分で表現できるように活動の時間を設けた。学習した知識をもとに、自分の考えを表現する力を身に付けさせるための指導方法が課題である。 ○調べ学習やまとめにタブレットを活用し、児童が主体的に探究、表現できた。 ○社会科の学習での資料の正確な読み取り方や、読み取る視点を学ばせ、総合的な学習の時間など、他教科の調べ学習にも活用できた。	○学校の周りの様子の学習では、児童の経験を出し合う、写真を見せる、タブレットの地図機能を活用するなどして白地図にまとめた。地域のどこに何があるかの認識は、児童によって個人差がある。 ○自分の考えを書いたり、調べたことを文章にまとめたりする力が弱い。 ○資料を読み取ることを苦手とする児童が多い。 ○「市の人々の仕事」では、農家の方を学校に招き、講話を実施する予定である。商店の学習では、スーパーの見学学習を行う計画を立てている。 ○実地での見学が難しい場合に、地域社会の一員としての自覚をどのように育てていくのか課題がある。	○児童が実際に見聞きする場を設定する。実施が難しい場合は、動画を作成するなどして、実感の伴った学習ができるようにする。 ○地域にみられる生産や販売など、具体的に示すことができるものは、写真に撮って見せたり、具体物を持参させたりするなどして、地域社会と自分たちのくらしは直結しているという感覚を味わわせる。 ◎様々な知識を得るだけでなく、自分の考えを表現できるように授業の中でも予想、分かったこと、まとめなどを自分で表現できるように活動の時間を確保し実施していく。 ○調べ学習やまとめにタブレットを活用し、児童が主体的に探究、表現できるようにする。 ○社会科の学習での資料の正確な読み取り方や、読み取る視点を学ばせ、総合的な学習の時間の調べ学習に生かせるようにする。
第4学年	○水道キャラバン、ごみ処理施設の見学など、体験的な学習を行ったり、児童が学習課題を立てたりすることで関心をもって主体的に問題解決に取り組もうとしていた。 ○タブレットを活用して調べ学習をし、新聞やポスターなど、児童の意欲を高める形態を工夫し学習したことをまとめることができた。タブレット活用力に個人差があることが課題である。 ○知識はあるが、他の事象と関連付けたり以前の学習を生かしたりして社会科の見方、考え方を働かせた問題解決を図ることが十分ではない。	○水道キャラバンの実施や、ごみ処理施設への見学を行ったことで、主体的な学習ができ、知識が深まった結果、振り返りのポスターを工夫してまとめる児童が多かった。見学などがない単元においても、資料の活用をして、主体的な学習を促したい。 ○都道府県の名前や位置など、基本的な知識理解の定着が不十分な児童がいる。また、位置を覚えていても、それに伴う特徴などの知識が結びついていない児童が多い。 ○タブレットを用いて、映像や資料を児童の手元に置いて授業を行ったが深い内容理解ができていない児童も多かった。資料を精選し、読み取る力を育む必要がある。	○見学などがない単元においては、ＩＣＴやグラフ、動画などの資料を用いて、児童自らが問いを見付け、予想を立てる活動を行い、学習課題に対する解決意欲を引き出す。 ◎ＩＣＴや地図帳、資料集などから深い内容理解をする力を身に付けさせるために、自分の考えを自分の言葉で記述したり、意見交換を行い考えを交流したりする時間を設ける。 ○総合的な学習の時間と関連付けながら、社会科の知識を広げていく。 ○単元の終末には、学習内容をポスターやスライドにまとめる学習を取り入れる。その際、資料を効果的に使用したり、事実と意見を区別して表現したりできるよう指導する。
第5学年	○分布図、統計資料の読み取りを丁寧に行い、資料を基に考えたり、必要な資料を見つけ、まとめたりする力が身についた。 ○社会的事象に関係する用語を用いてまとめさせることで、社会的事象への理解がより深まった。 ○問題を解決する前に予想を立てさせる作業は、課題を掴み、解決までの道筋をイメージさせる上で有効だった。	○タブレットを活用し、映像や資料を多く使用した授業を行った。資料を読み取る視点を指導することで、それぞれの資料がもつ意味を理解することができ、知識・理解を深めることができた。 ○タブレットを活用し、映像や資料を読み取って得た事実から考えられることを交流する活動を多く行うことで、読み取ったことを共有し、広げたり深めたりすることができた。 ○学習問題を児童の話し合いを基にじっくりと作ることができなかった。その結果、与えられた学習課題となってしまい、児童の学習意欲を十分に引き出すことができなかった。 ○学習のまとめの時間を十分に確保することができず、自分が授業で理解したことを、ノートや新聞などに表現する機会が少なかった。	◎単元の終末には、学習内容をノートや新聞、ＩＣＴを使ったスライドなどにまとめる学習を取り入れる。その際、資料を効果的に使用したり、事実と意見を区別して表現したりできるよう指導する。 ◎児童が学習問題を立てる際に、児童の疑問や興味を最大限生かすようにすることで、学習への意欲を引き出す。また、学習問題に対しては必ず予想を立てさせ、その根拠（生活体験、教科書、資料集、地図帳など）も示させることで、思考力の向上を図る。 ○ペアでの対話を多く取り入れ、自分の考えを表現する機会を多く確保することで、表現力の向上を図る。 ○分布図、統計資料などの読み取りの視点を丁寧に指導し、そこから事象の特色を読み取らせることで、知識・理解の定着を図る。
第6学年	○学習問題に対する予想を立てることで、課題意識をもって取り組めた。 ○公民分野の学習では、自分事として捉えるためには、使用できる映像教材にも限りがあり、不十分であった。導入から学習問題を立てるまでの流れで工夫が必要である。 ○事実を覚えることよりも、その時の人々の思いや因果関係を考えさせる学習活動を意識することで、考察しようとする態度や力が育まれた。 ○まとめの時間を十分に確保することができなかった。まとめ方はＩＣＴを活用することも視野に入れ、効率よくできるようにする。	○公民分野において、自分事として捉えられている児童が少なく、実生活とのつながりを明確にして指導していく必要がある。 ○タブレットを活用した調べ学習は充実しているが、情報を選別したり、得た情報から必要事項を上手にまとめたりすることが苦手な児童もいる。 ○歴史には多くの児童が興味関心をもって学習している。 ○社会事象に関心をもっている児童ともっていない児童の知識の差が大きい。	○単元の学習問題に対する予想を立てさせることで、一人ひとりが課題意識をもって主体的に学習に取り組めるようにする。 ○公民分野の学習では、社会科見学や映像教材などを活用し、自分事として捉えてよりよい社会生活へ生かす方法を考えられるようにする。 ◎歴史上の人物や出来事などを覚えるだけではなく、その時の人々の思いや因果関係を考えさせることで考察する力を養う。 ◎まとめる活動を入れ、歴史の人物・出来事、資料から読み取れたことなどを事実と考察を区別して書き表したりできるよう指導する。 ○社会の出来事に目を向け、関心をもったことや自分の考えを伝える機会を作る。